

平成  
30年度



# 浦安の子どもたちの 確かな学力の向上を目指して

## 浦安市学力調査結果 平成30年6月1日実施

い・な・成・平・成

## 目次

小学校4年生 国語結果

小学校4年生 算数結果

中学校2年生 国語結果

中学校2年生 数学結果

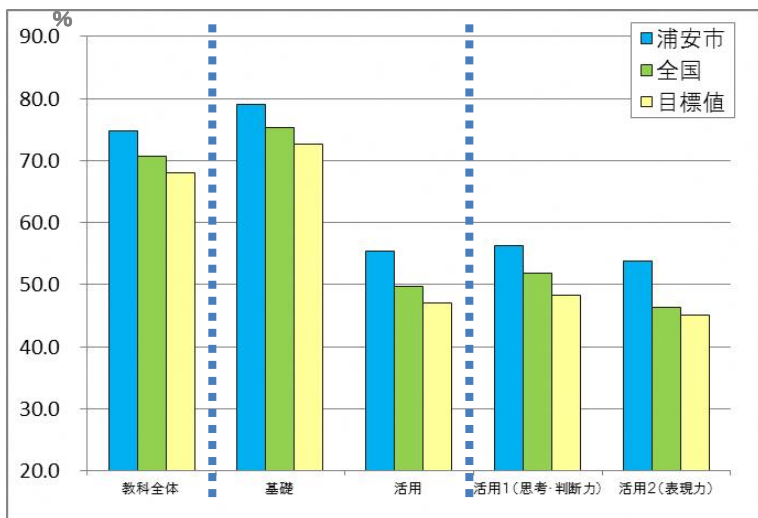
中学校2年生 英語結果

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率(%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		75	71	68
基礎		79	75	73
活用	思考・判断力	55	50	47
	表現力	56	52	48
観点	話す・聞く能力	77	73	70
	書く能力	64	60	60
	読む能力	71	66	62
	言語についての知識・理解・技能	77	73	71
領域	話すこと・聞くこと	81	77	73
	書くこと	68	64	64
	読むこと	72	68	63
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78	74	71

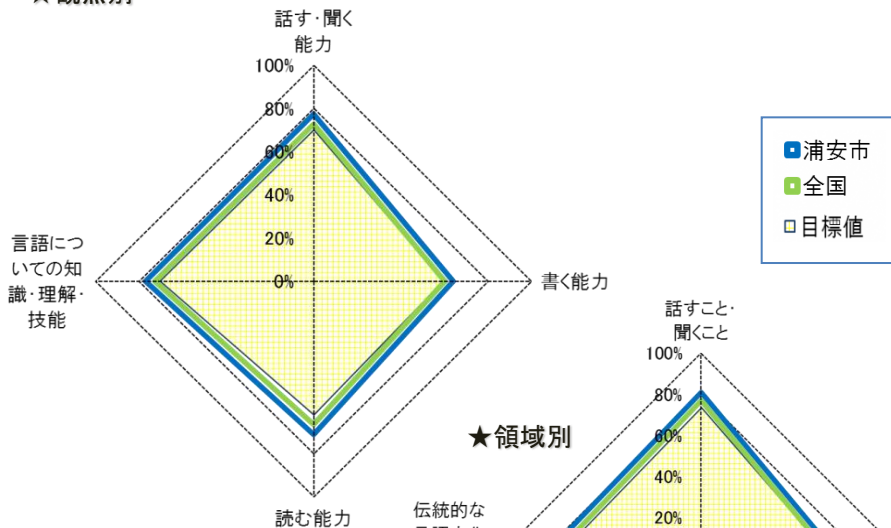
\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用 正答率グラフ

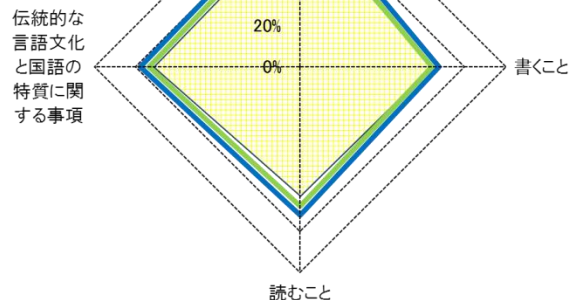


観点別・領域別 レーダーチャート

★観点別



★領域別



概要

教科全体において、平均正答率の全国値(71%)に対して、浦安市は75%と全国値を4ポイント上回る結果でした。  
領域・観点ともにすべて目標値・全国値を上回っています。

平成29年度と平成30年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H29年度			H30年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		76	70	68	75	71	68
観点	話す・聞く能力	78	72	70	77	73	70
	書く能力	67	60	60	64	60	60
	読む能力	72	66	62	71	66	62
	言語についての知識・理解・技能	78	72	71	77	73	71
領域	話すこと・聞くこと	81	76	73	81	77	73
	書くこと	71	64	64	68	64	64
	読むこと	73	67	63	72	68	63
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78	73	71	78	74	71

\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

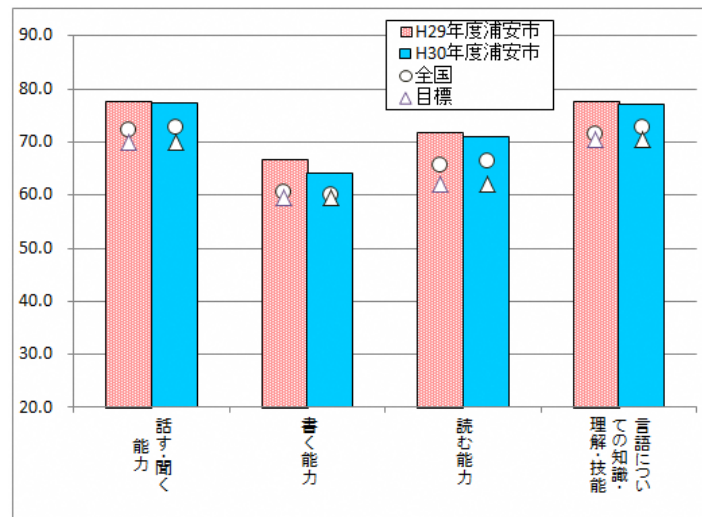
考察

観点別にみると、本年度は昨年度と比較して、1～3ポイントずつ下回っています。

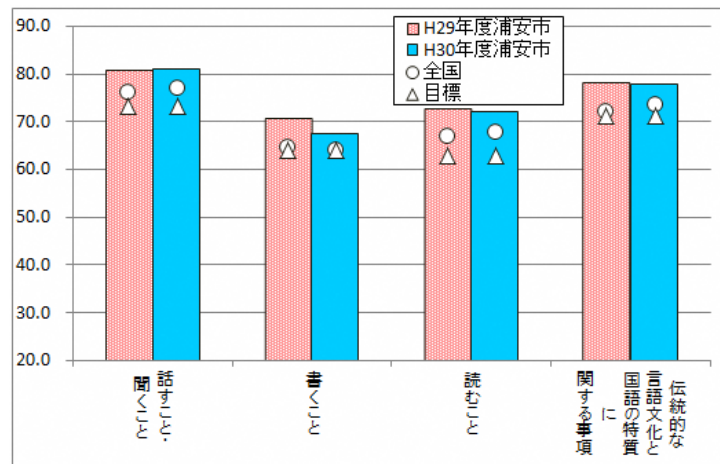
領域別では、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では同等、「書くこと」が3ポイント下回っています。

平成29年度と平成30年度 経年比較グラフ

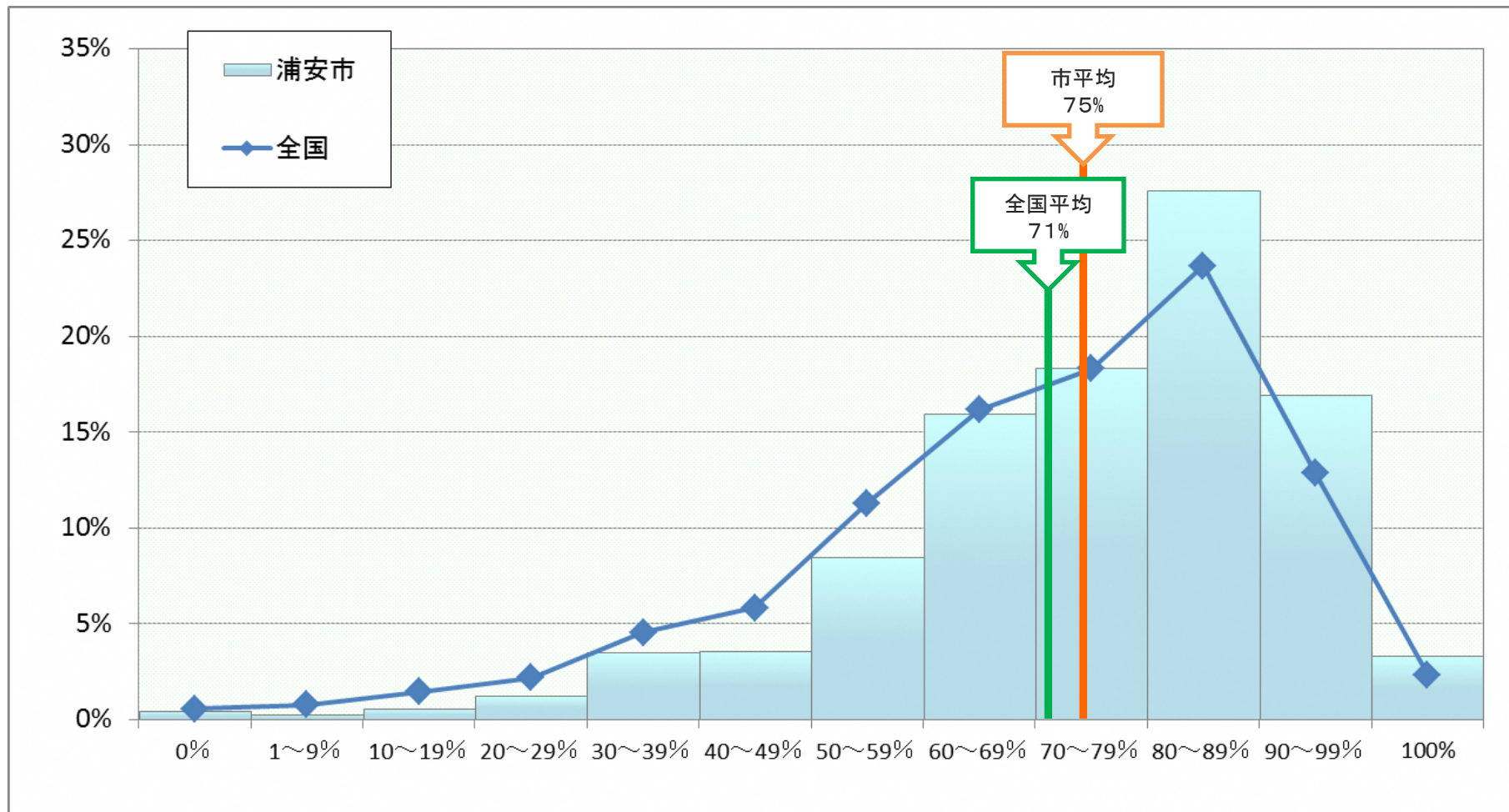
★観点別



★領域別



平成30年度 小学校4年国語 正答率度数分布



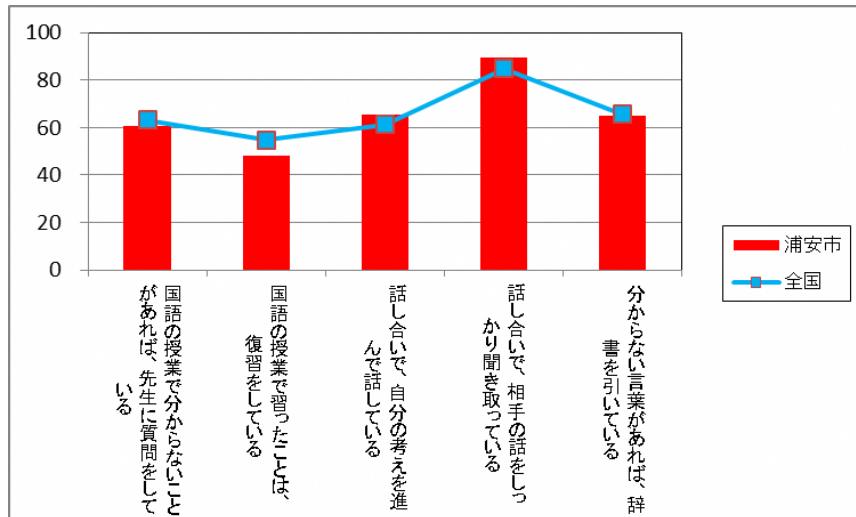
度数分布について

全国と比べて正答率が80~89%、90~99%、100%の児童の割合が高いことが分かります。特に、80~89%の割合は大きく上回っています。  
 正答率が70%以上の児童の割合は、66%と半数を超え、全国(57%)を9ポイント上回っています。

## 平成30年度 小学校4年国語 質問紙調査結果

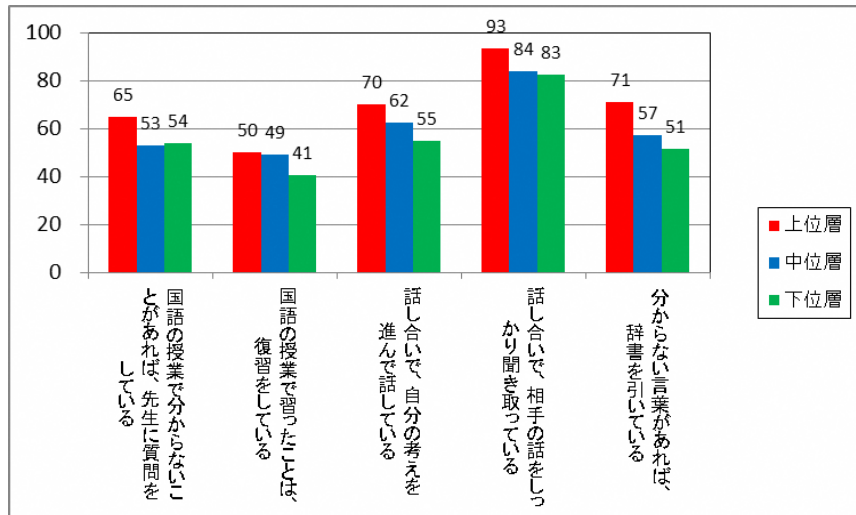
★「はい」と回答した市全体と全国との割合(%)の比較

質問	浦安市	全国
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	61	63
国語の授業で習ったことは、復習をしている	48	55
話し合いで、自分の考えを進んで話している	66	61
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	90	85
分からない言葉があれば、辞書を引いている	65	66



★各層で「はい」と回答した割合(%)と上位層と下位層の割合の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	65	53	54	11
国語の授業で習ったことは、復習をしている	50	49	41	9
話し合いで、自分の考えを進んで話している	70	62	55	15
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	93	84	83	10
分からない言葉があれば、辞書を引いている	71	57	51	20



※3階層の区分は、学力調査の結果が目標値の+5%以上を上位層、-5%以上～+5%未満を中位層、-5%未満の範囲を下位層としています。

結果  
について

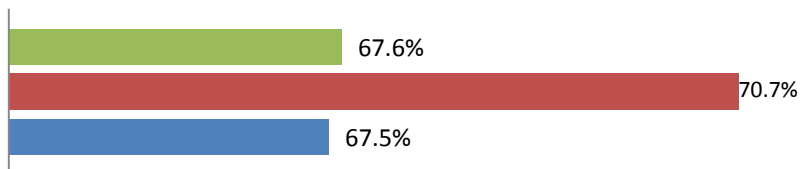
昨年度同様、「話し合いで、自分の考えを進んで話している」「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」が全国を上回っています。逆に、「分からない言葉があれば、辞書を引いている」は、今年度は下回っています。また、「国語の授業で習ったことは、復習をしている」が全国よりも7ポイント低く、上位層と下位層の差も少なくなっています。

## &lt;傾向&gt;

## 「書くこと」経年変化

## 経年変化「書くこと」

■ 28年度 ■ 29年度 ■ 30年度



## 「作文」に関する設問の正答率(記述式)

「指定された長さで文章を書く」101字～108字 正答率 (%)	
全国平均	59.7
浦安市平均	<b>61.2</b>

「2段落構成で文章を書くことができる」2段落正答率 (%)	
全国平均	54.6
浦安市平均	<b>60.8</b>

「表現力(活用)」の正答率は、全国を上回っているものの、過去最低の数値となっています。また、表現力を見る記述式の設問でも全国を上回っていますが、正答率が約60%となっています。日常生活の中で語彙を増やしたり、様々な表現に触れさせたりするためにも、引き続き、読書活動の充実や新聞の活用など継続的な取り組みが必要です。



## 【日常の取組】

## ○書くことに楽しさを感じる児童を育てましょう

→相手や目的を強く意識しながら課題を設定したり、取材をしたりして書くことが重要です。その場を共有しない読み手や生活の中で必要となる場面を具体的に想定して指導しましょう。

## ○言葉に親しみを持つ児童を育てましょう

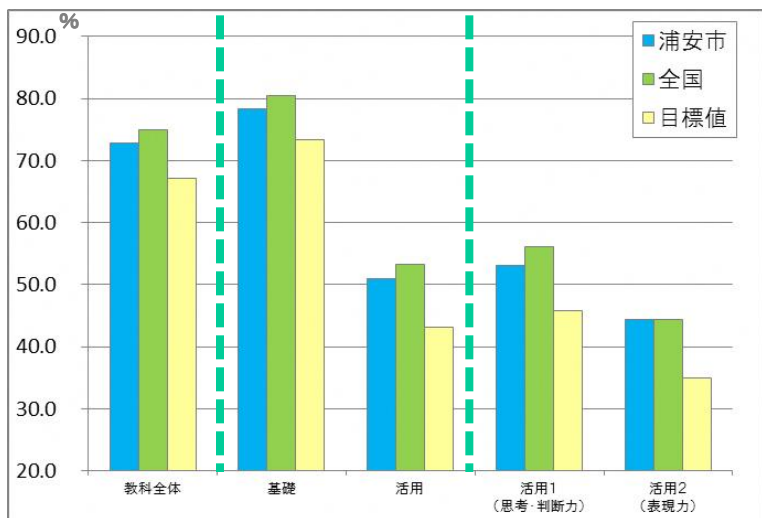
→国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに、必要なときにいつでも使える言語環境を国語科に限らず他教科の学習や日常生活の中でも整えることが大切です。短文作りなどを通して、習得した語句を進んで自分の表現に用いるように指導しましょう。

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率(%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
	教科全体	73	75	67
	基礎	78	80	73
活用	思考・判断力	51	53	43
	表現力	53	56	46
観点	数学的な考え方	57	61	51
	数量や図形についての技能	76	78	71
	数量や図形についての知識・理解	75	76	68
領域	数と計算	73	75	68
	量と測定	76	76	71
	図形	63	67	58
	数量関係	76	79	67

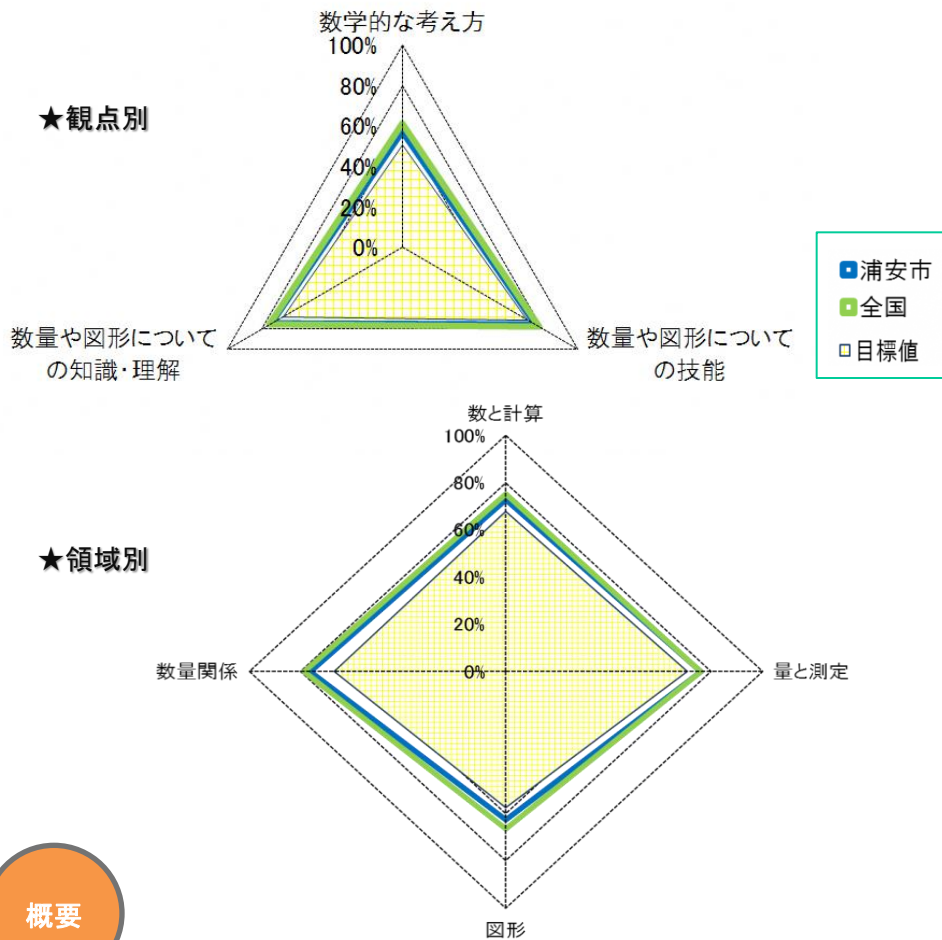
\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

教科全体の正答率は、全国値をやや下回りました。観点、領域とも目標値は、同等または超えています。  
「数と計算」「図形」「数量関係」の領域で、全国値を下回っています。



平成29年度と平成30年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H29年度			H30年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		74	74	67	73	75	67
観点	数学的な考え方	60	61	51	57	61	51
	数量や図形についての技能	77	78	71	76	78	71
	数量や図形についての知識・理解	76	76	68	75	76	68
領域	数と計算	74	75	68	73	75	68
	量と測定	77	76	71	76	76	71
	図形	63	66	58	63	67	58
	数量関係	79	79	67	76	79	67

\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

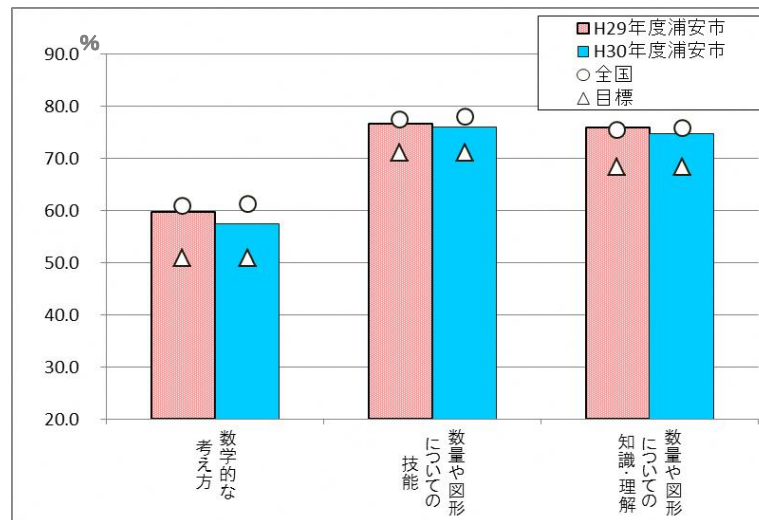
考察

観点別にみると、正答率が本年度は昨年度と比較して、すべての観点において下回っている傾向があります。

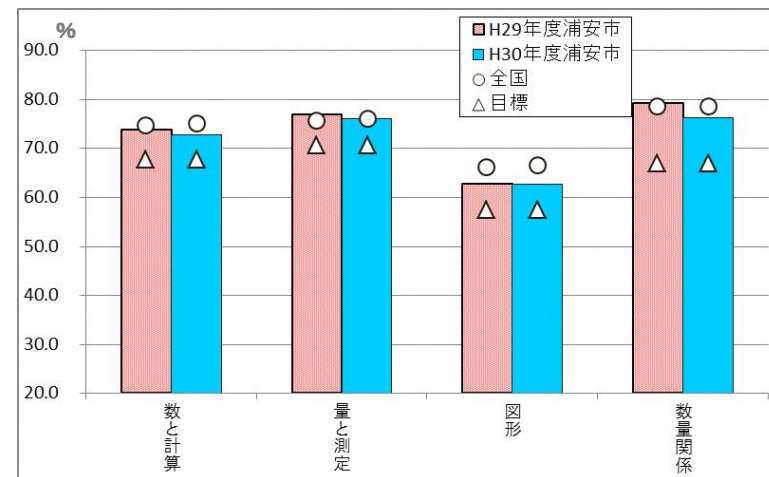
領域別にみても、昨年度と比較して、ほぼすべての領域で昨年度を下回っている傾向にあります。

平成29年度と平成30年度 経年比較グラフ

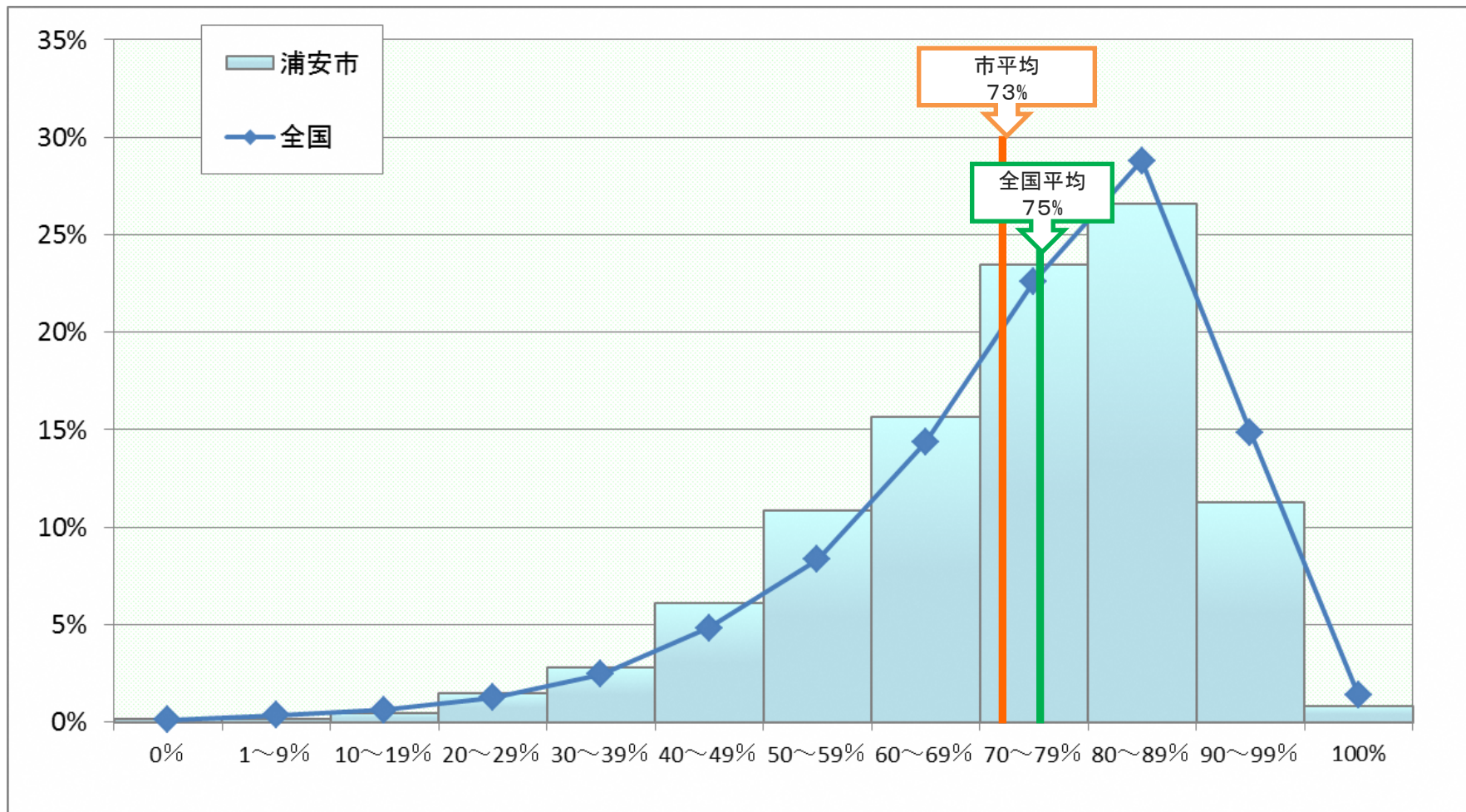
★観点別



★領域別



# 平成30年度 小学校4年算数 正答率度数分布



度数分布について

40~79%のそれぞれの層の割合は全国を上回り、正答率80~89%、90~99%の児童の割合については全国よりも下回ります。正答率が70%以上の児童の割合は、62%ですが、全国(68%)を6ポイント下回っています。

## 平成30年度 小学校4年算数 質問紙調査結果

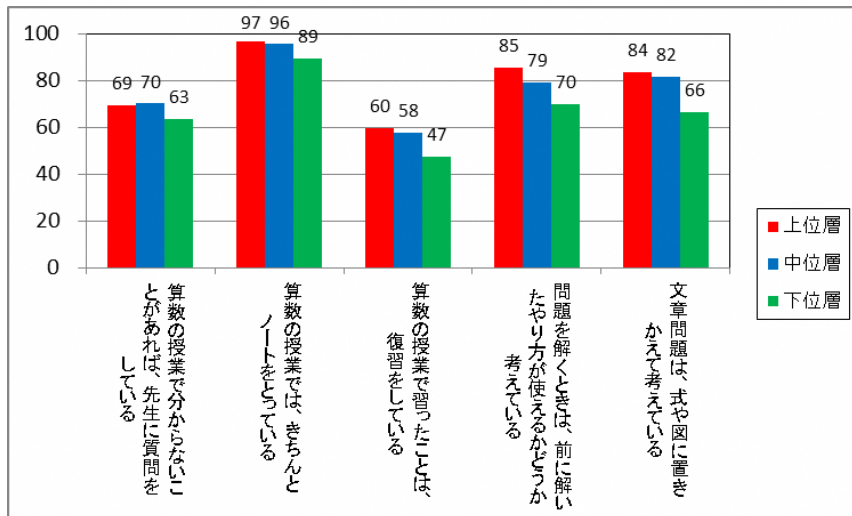
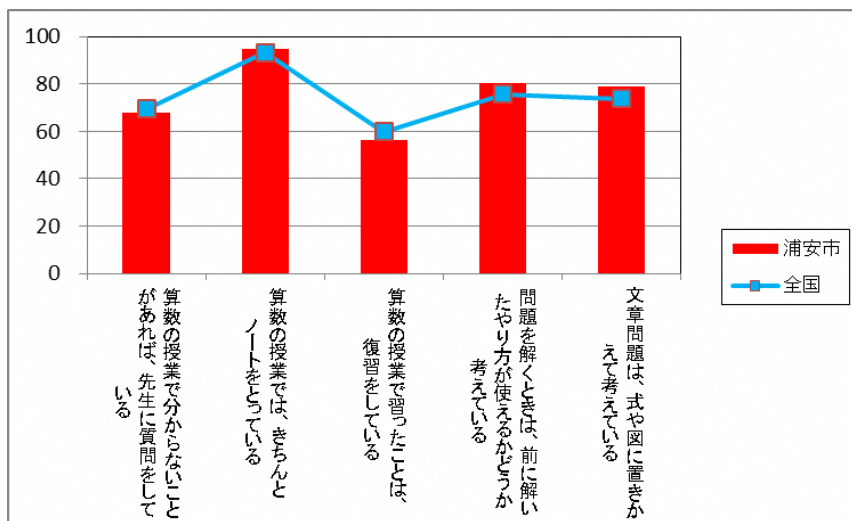
★「はい」と回答した市全体と全国との割合(%)の比較

質問	浦安市	全国
算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	68	69
算数の授業では、きちんとノートをとっている	95	93
算数の授業で習ったことは、復習をしている	56	60
問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている	80	76
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	79	74

★各層で「はい」と回答した割合(%)と上位層と下位層の割合の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	69	70	63	6
算数の授業では、きちんとノートをとっている	97	96	89	8
算数の授業で習ったことは、復習をしている	60	58	47	13
問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている	85	79	70	15
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	84	82	66	18

※3階層の区分は、学力調査の結果が目標値の+5%以上を上位層、-5%以上～+5%未満を中位層、-5%未満の範囲を下位層としています。



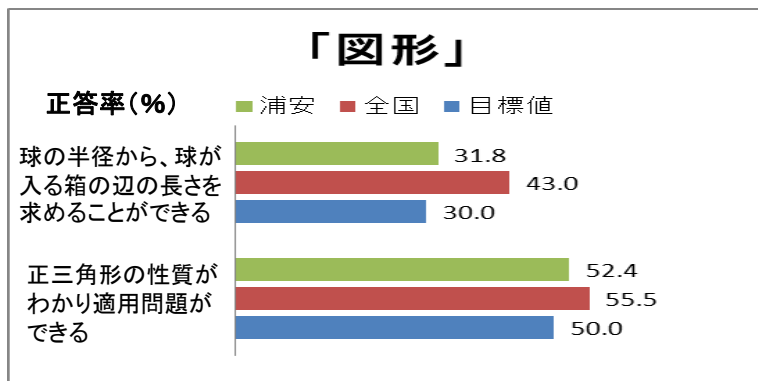
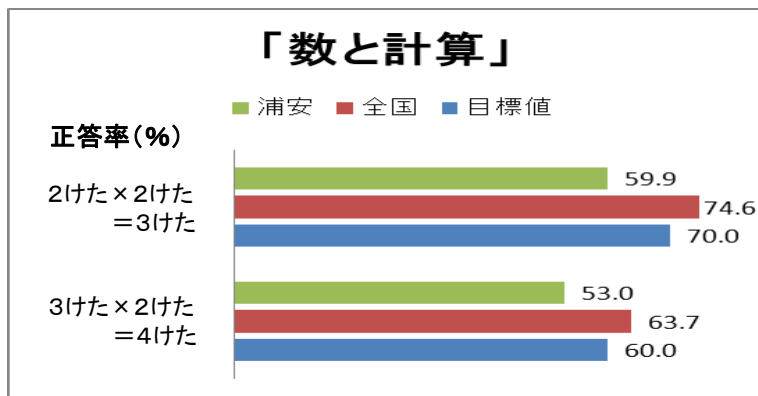
結果  
について

「算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている」「算数の授業で習ったことは、復習をしている」が全国をやや下回っています。

また、昨年度同様、「問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている」「文章問題は、式や図に置きかえて考えている」は、上位層と下位層の差が大きくなっています。

<傾向>

「数と計算」領域、「図形」領域  
に改善が必要



<指導改善例>

【日常の取組】

- 場面や状況に応じて、計算の結果を見積もる習慣をつけましょう  
例) おおよそ△△になる。●●よりも小さくなる。
- 計算の仕方を見通し、考える活動をしましょう  
例) かけ算九九をもとにして筆算の方法を自ら考える。
- 図形の性質に着目した活動をしましょう  
例) いろいろな四角形の共通点や相違点を見つける活動を行う。
- 少人数指導・学習形態を工夫しましょう  
例) 学習内容の習熟を図る展開等で、習熟度別学習を実施する。
- 児童のつまずきの的確な把握をしましょう  
例) 自己評価表の活用や、座席表を利用して学習状況の把握を行う。



正答率はほとんどの問題で昨年度と同等または下回っています。特に、「2けた×2けた」「3けた×2けた」の計算は、昨年度一昨年度に引き続き目標値を下回っています。「数と計算」領域を苦手としている児童に対して、手だてが必要です。「図形」領域では、目標値は上回っているものの、全国平均を下回っています。

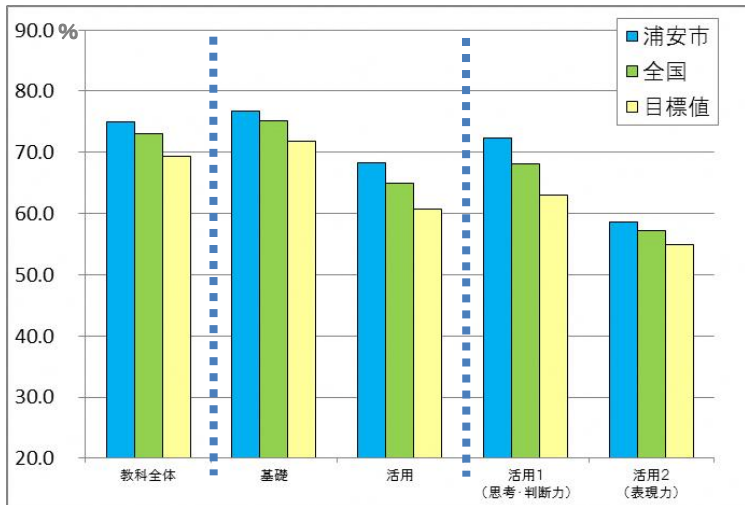
これらの結果から、数の性質をもとに、計算の方法を考える学習や、図形をかたちだけでなく、性質でとらえる学習が大切です。

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

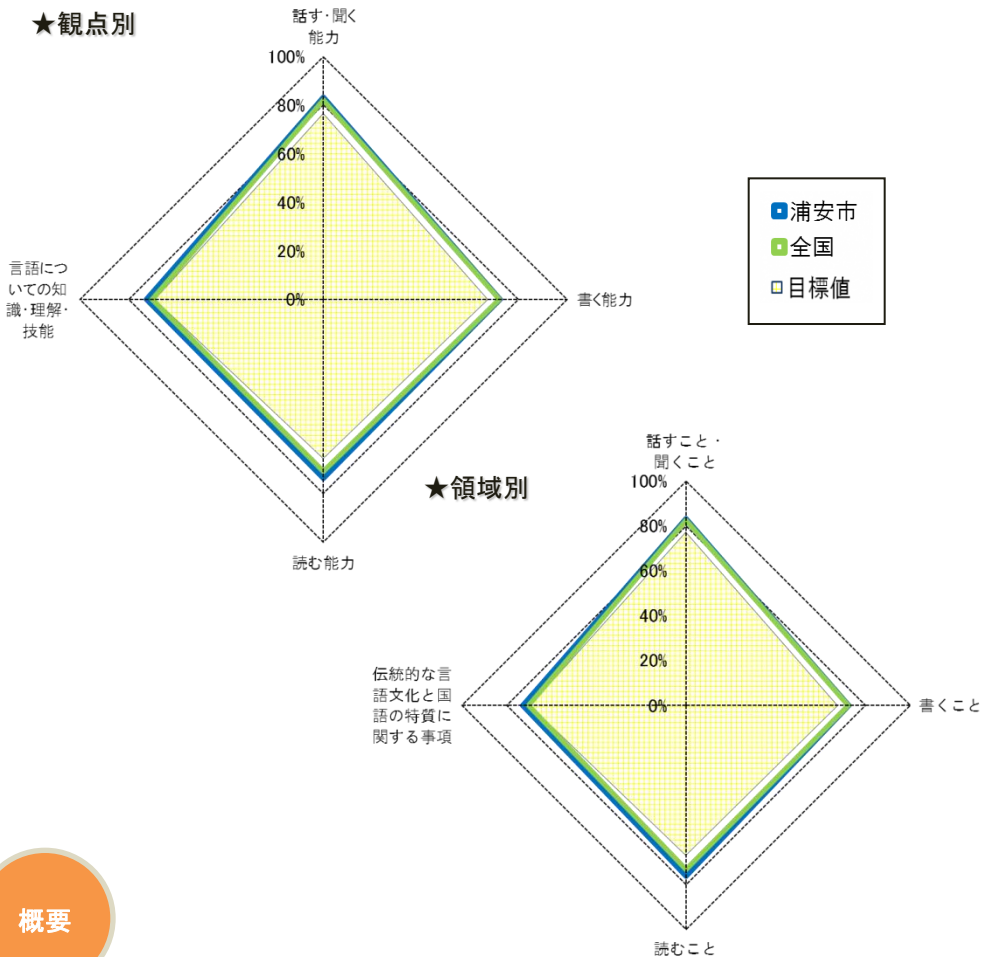
分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		75	73	69
基礎		77	75	72
活用	思考・判断力	68	65	61
	表現力	72	68	63
観点	話す・聞く能力	83	82	77
	書く能力	73	72	67
	読む能力	74	71	65
	言語についての知識・理解・技能	73	70	70
領域	話すこと・聞くこと	83	83	78
	書くこと	73	72	68
	読むこと	76	73	67
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73	70	70

\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



観点別・領域別 レーダーチャート



概要

教科全体の正答率(75%)は、全国値(73%)を2ポイント上回っています。基礎・活用ともに目標値を2ポイント以上、上回っています。昨年度同様、すべての領域、観点で全国値、目標値を上回っています。

平成29年度と平成30年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H29年度			H30年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		76	72	69	75	73	69
観点	話す・聞く能力	85	82	77	83	82	77
	書く能力	74	71	67	73	72	67
	読む能力	76	70	65	74	71	65
	言語についての知識・理解・技能	73	70	70	73	70	70
領域	話すこと・聞くこと	85	82	78	83	83	78
	書くこと	73	71	68	73	72	68
	読むこと	78	72	67	76	73	67
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73	70	70	73	70	70

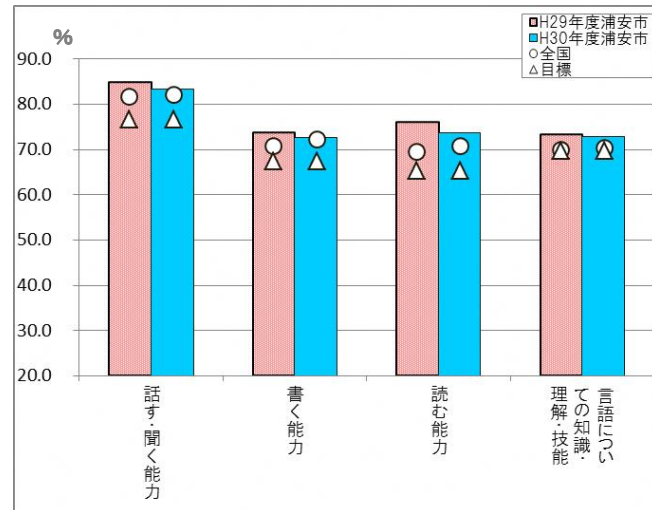
\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

考察

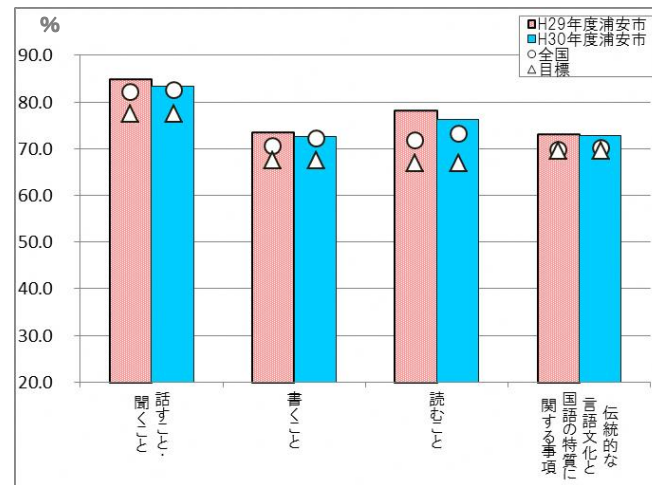
観点別にみると、本年度は昨年度と比較して、「言語についての知識・理解・技能」は同値ですが、他はわずかながら下回っています。  
領域別も同様で、昨年度と比較して、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が2ポイント下回っています。

平成29年度と平成30年度 経年比較グラフ

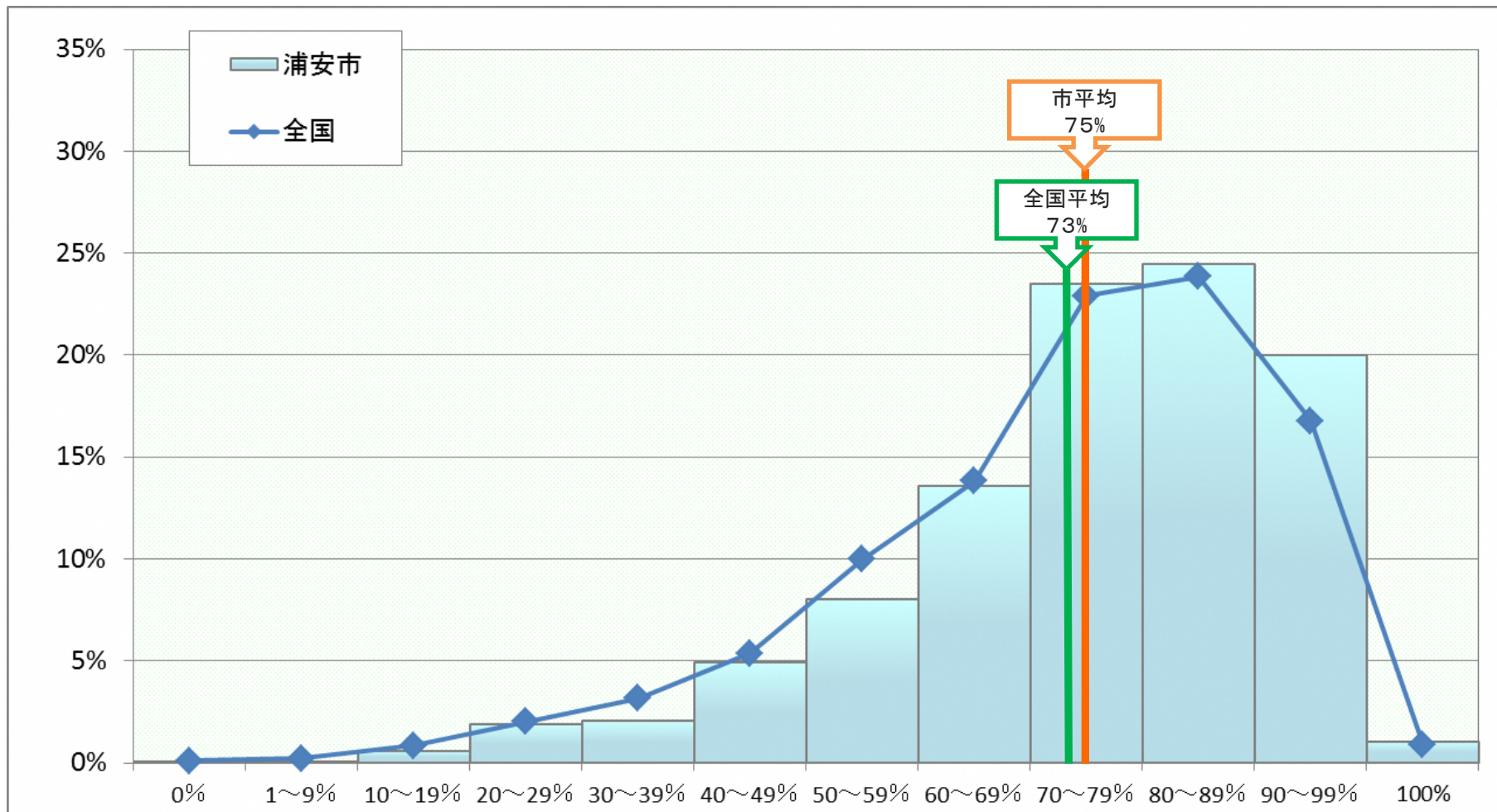
★観点別



★領域別



平成30年度 中学校2年国語 正答率度数分布



度数分布について

全国と比べて70~99%の生徒の割合が高くなっています。  
 正答率が70%以上の生徒の割合は、69%と高く、全国(64%)を5ポイント上回っています。

## 平成30年度 中学校2年国語 質問紙調査結果

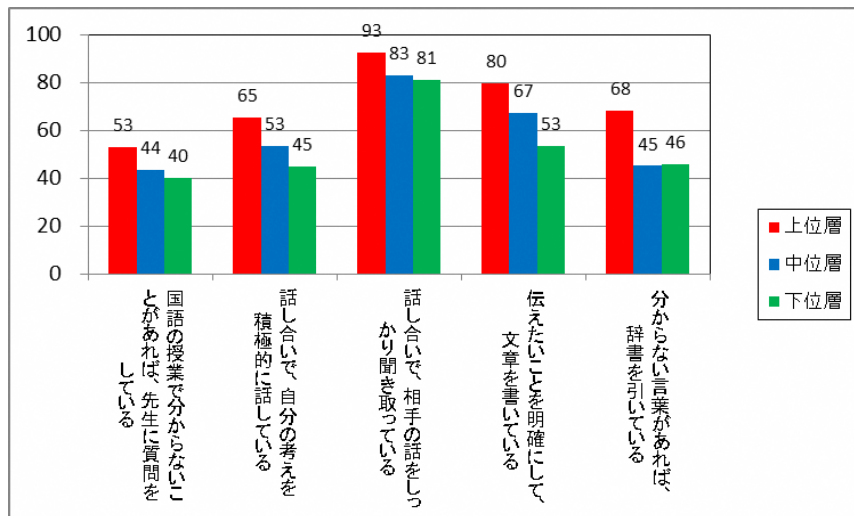
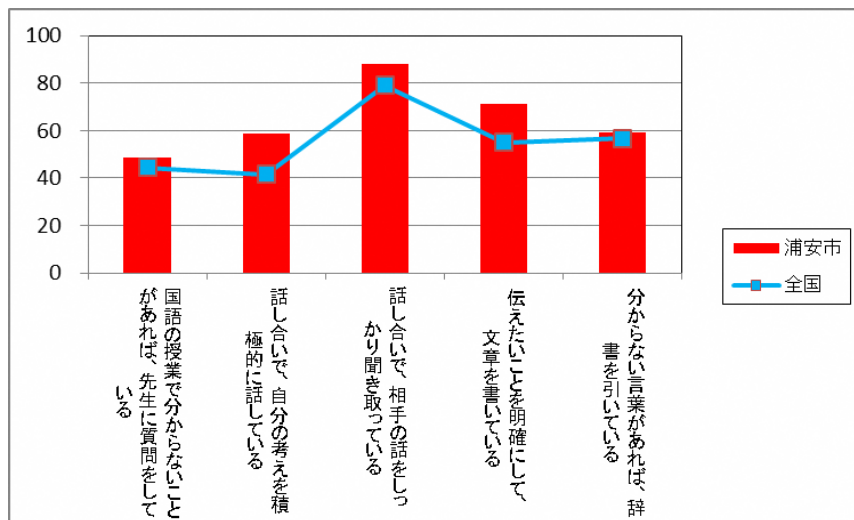
★「はい」と回答した市全体と全国との割合(%)の比較

質問	浦安市	全国
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	48	44
話し合いで、自分の考えを積極的に話している	59	42
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	88	79
伝えたいことを明確にして、文章を書いている	71	55
分からない言葉があれば、辞書を引いている	59	57

★各層で「はい」と回答した割合(%)と上位層と下位層の割合の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	53	44	40	13
話し合いで、自分の考えを積極的に話している	65	53	45	20
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	93	83	81	12
伝えたいことを明確にして、文章を書いている	80	67	53	27
分からない言葉があれば、辞書を引いている	68	45	46	22

※3階層の区分は、学力調査の結果が目標値の+5%以上を上位層、-5%以上～+5%未満を中位層、-5%未満の範囲を下位層としています。



結果  
について

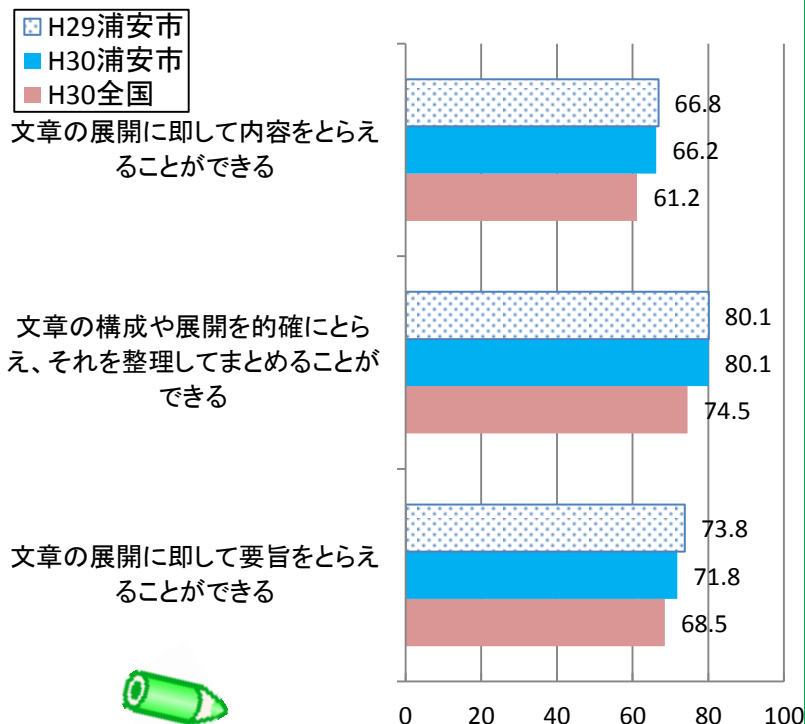
市と全国の比較では、全体的に全国を上回り、「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」「伝えたいことを明確にして、文章を書いている」が特に大きく上回っています。



## &lt;傾向&gt;

「読むことの」正答率が高い

「読むこと」(説明文)の前年度比較



## &lt;指導改善例&gt;

## 【日常の取組】

## ○「読むこと」を「書くこと」に生かす指導の充実を図っていきましょう

→これまで培ってきた「読むこと」の力を生かしながら読みやすく分かりやすい文章を書くために、表現の仕方に注意して文章を読み返したり、書き手の表現の工夫等を根拠を明確にしながら検討し合ったりするなどの指導を行いましょう。

また、視点を変えて文章を書き替えさせるなど内容や表現の仕方について理解を促す工夫を講じることも大切です。

→ICT機器などを効果的に活用し、生徒の興味関心を深めましよう。



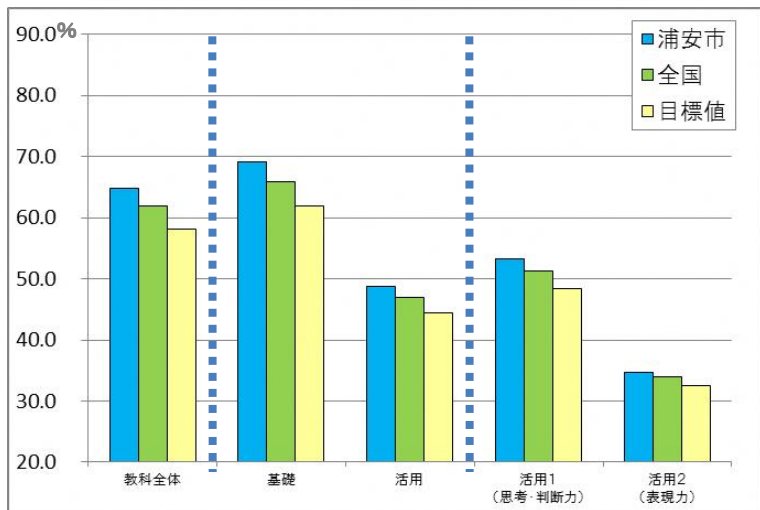
「読むこと」の領域では、前年度同様の結果であり、全国値を3.3～5.6ポイント上回っています。「読むこと」と併せて、日ごろから「書くこと」を積み重ねる指導の工夫が必要です。

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		65	62	58
基礎		69	66	62
活用	思考・判断力	49	47	44
	表現力	53	51	48
観点	数学的な見方や考え方	51	49	46
	数学的な技能	70	66	62
	数量や図形などについての知識・理解	61	60	56
領域	数と式	73	68	63
	図形	65	63	59
	関数	63	61	59
	資料の活用	47	48	44

\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

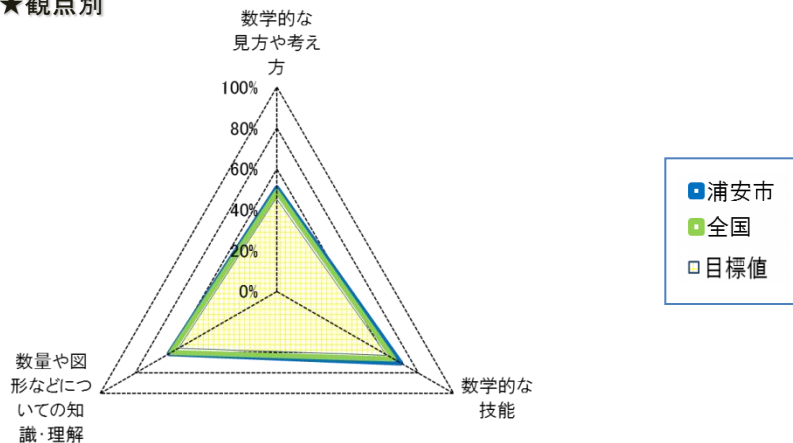
教科全体 基礎・活用 正答率グラフ



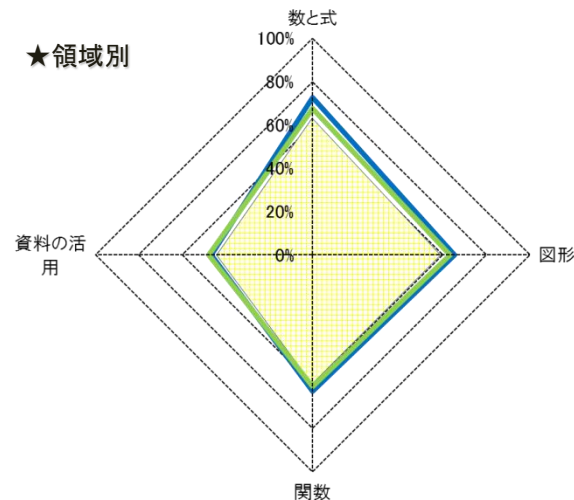
「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート

★観点別



★領域別



概要

教科全体の正答率(65%)は、全国値(62%)を3ポイント上回っています。

「資料の活用」領域は、目標値を上回ったものの、全国値と比較して1ポイント下回っています。

平成29年度と平成30年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H29年度			H30年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		66	60	58	65	62	58
観点	数学的な見方や考え方	51	47	46	51	49	46
	数学的な技能	72	65	62	70	66	62
	数量や図形などについての知識・理解	62	58	56	61	60	56
領域	数と式	74	66	63	73	68	63
	図形	66	62	59	65	63	59
	関数	63	58	59	63	61	59
	資料の活用	47	46	44	47	48	44

\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

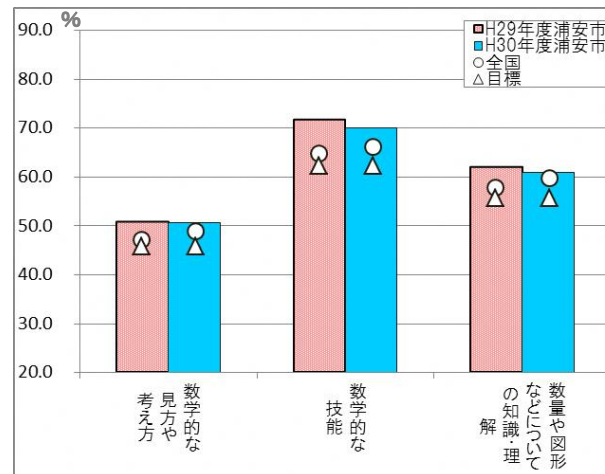
考察

観点別にみると、昨年度と比較して、すべての観点においてほぼ同じ正答率です。

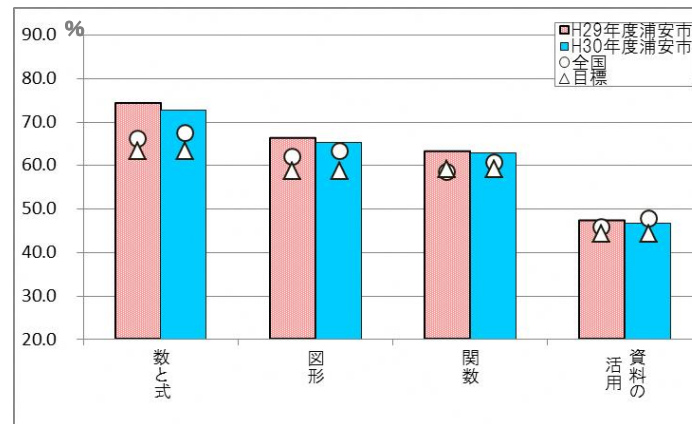
領域別においても、観点別と同様に、すべての領域において、昨年度とほぼ同じ正答率です。

平成29年度と平成30年度 経年比較グラフ

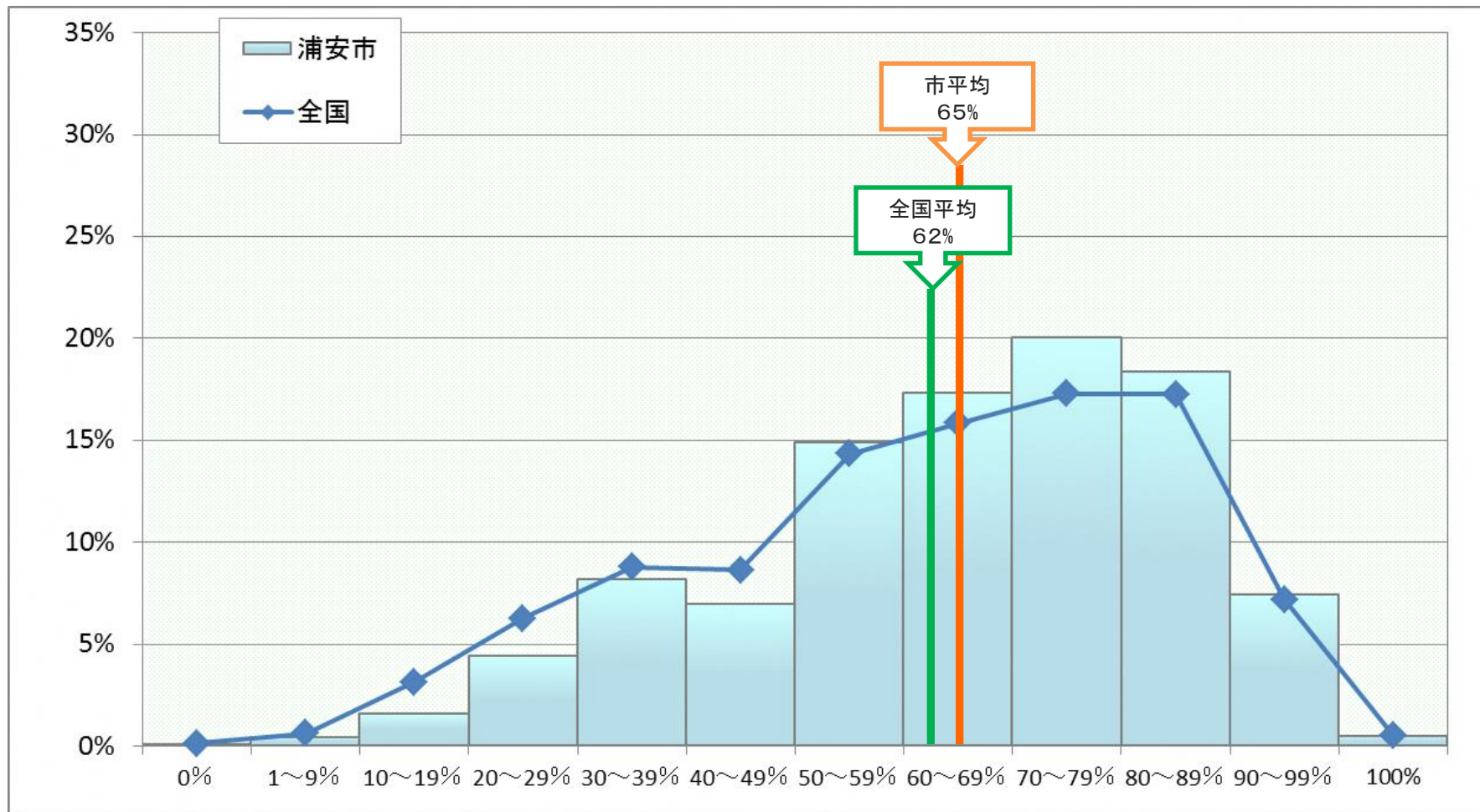
★観点別



★領域別



## 平成30年度 中学校2年数学 正答率度数分布



度数分布について

正答率は、幅広く分布しています。全国も同傾向ですが、昨年度同様、浦安市は下位層において30～39%の生徒の割合が多くなっています。

正答率が70%以上の生徒の割合は46%で、全国(42%)を4ポイント上回っています。

## 平成30年度 中学校2年数学 質問紙調査結果

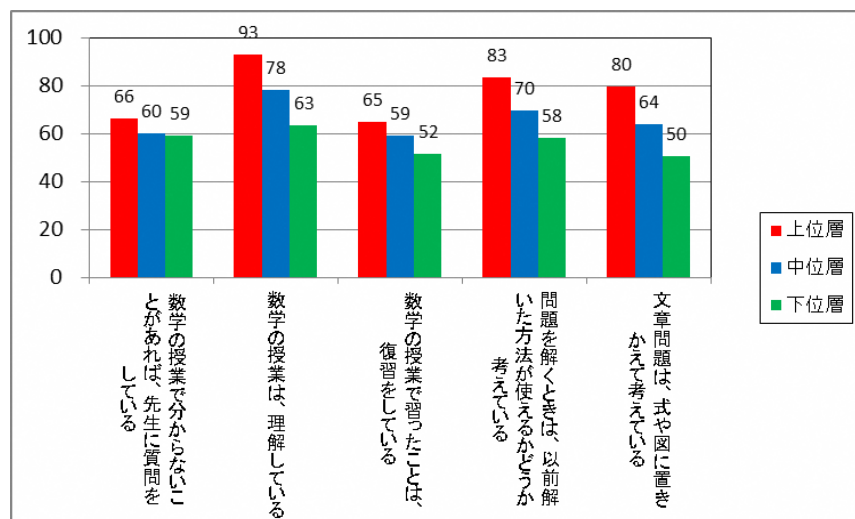
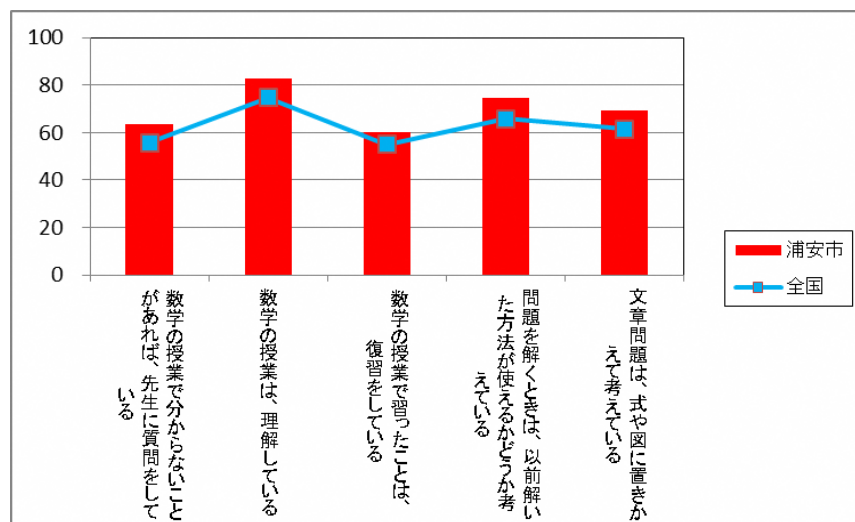
★「はい」と回答した市全体と全国との割合(%)の比較

質問	浦安市	全国
数学の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	64	56
数学の授業は、理解している	83	75
数学の授業で習ったことは、復習をしている	60	55
問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている	75	66
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	69	62

★各層で「はい」と回答した割合(%)と上位層と下位層の割合の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位ー下位
数学の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	66	60	59	7
数学の授業は、理解している	93	78	63	30
数学の授業で習ったことは、復習をしている	65	59	52	13
問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている	83	70	58	25
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	80	64	50	30

※3階層の区分は、学力調査の結果が目標値の+5%以上を上位層、-5%以上～+5%未満を中位層、-5%未満の範囲を下位層としています。



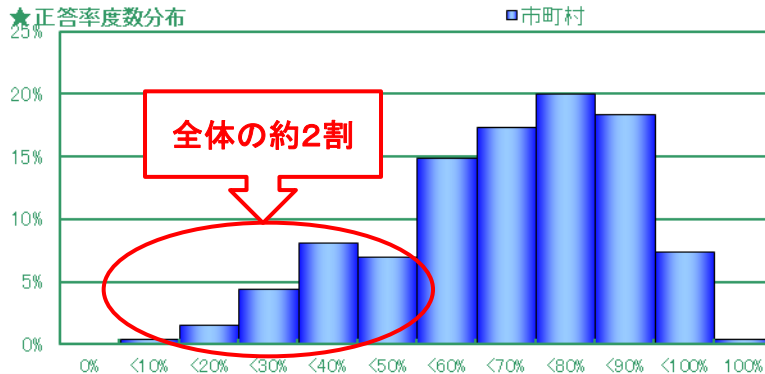
結果  
について

市と全国の比較では、全体的に全国を上回り、「問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている」が大きく上回っています。

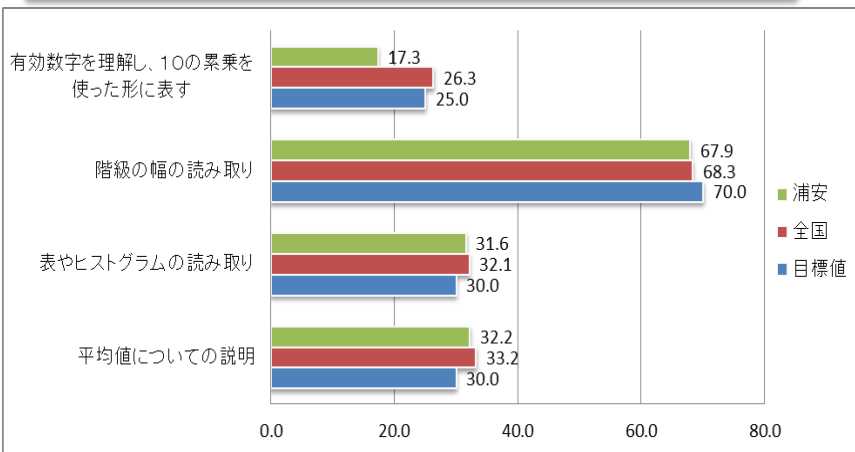
上位層と下位層の差については、昨年同様「数学の授業は理解している」「文章問題は、式や図に置きかえて考えている」が30ポイントあり、特に大きな差があります。

<傾向>

正答率50%未満の  
生徒の割合がおよそ2割



「資料の活用」領域に改善が必要



<指導改善例>

【日常の取組】

- 少人数指導を取り入れるなど学習形態を工夫しましょう  
例) 習熟場面での習熟度別学習  
小グループによる教え合い活動
- 学習場面に応じてICTを活用しましょう  
例) 課題把握場面・比較検討場面
- 生徒のつまづきを的確に把握しましょう  
例) 自己評価表、座席表の活用
- データを分析する力を育成しましょう  
例) テストの点数と学習時間の相関
- 「ちばのやる気」学習ガイド(千葉県教育委員会発行)を活用しましょう
- 単元の系統性をとらえ、小学校算数との接続を意識して教材研究をしましょう
- 「生徒指導の機能を重視したわかる授業づくり」に取り組みましょう

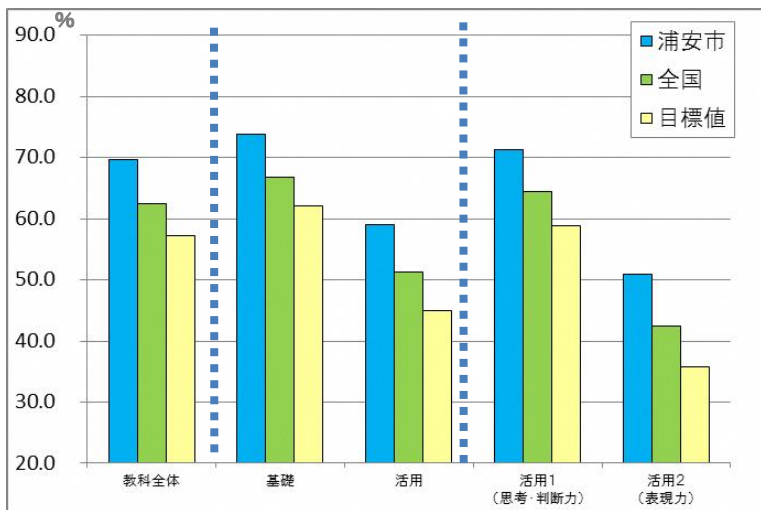
正答率が70%以上の生徒の割合は、およそ46%で、全国を上回っているものの、正答率が50%未満の生徒がおよそ22%います。個別対応を含め、授業の工夫が必要です。また、全国平均を下回る「資料の活用」領域については、身近な課題からデータを収集する等の場面設定を工夫し、必要感をもってその特徴を捉える経験を重ねる必要があります。

教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		70	62	57
基礎		74	67	62
活用		59	51	45
活用	思考・判断力	71	64	59
	表現力	51	42	36
観点	外国語表現の能力	61	54	49
	外国語理解の能力	73	67	62
	言語や文化についての知識・理解	71	62	56
領域	聞くこと	77	70	66
	読むこと	66	60	56
	書くこと	67	58	52

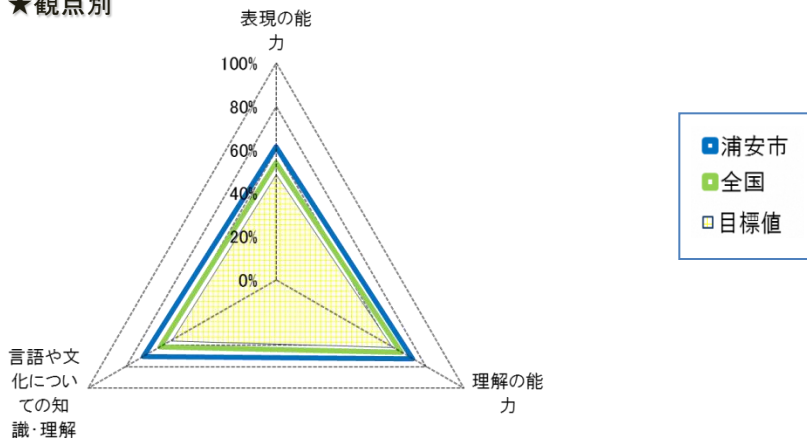
\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用 正答率グラフ

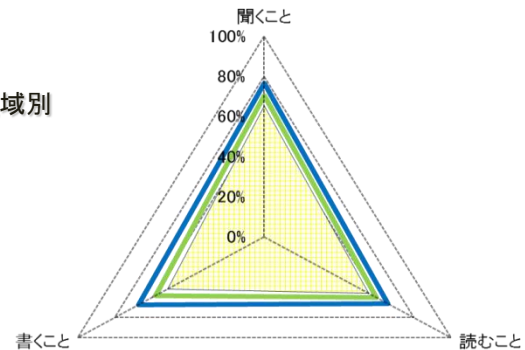


観点別・領域別 レーダーチャート

★観点別



★領域別



概要

正答率は、全国値を8ポイント上回っています。  
全ての観点、領域において、全国値・目標値を上回っています。

平成29年度と平成30年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H29年度			H30年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		72	59	57	70	62	57
観点	外国語表現の能力	62	51	49	61	54	49
	外国語理解の能力	75	64	62	73	67	62
	言語や文化についての知識・理解	73	57	56	71	62	56
領域	聞くこと	78	67	66	77	70	66
	読むこと	68	58	56	66	60	56
	書くこと	69	53	52	67	58	52

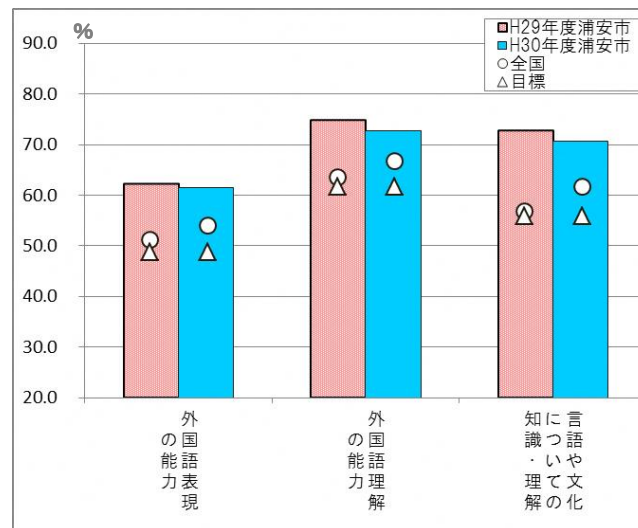
\* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

考察

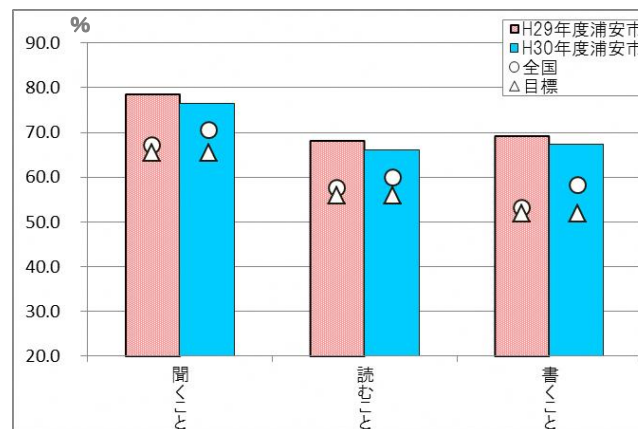
教科全体の正答率は、昨年度とほぼ同じ正答率となっており、目標値・全国値に対して上回っています。  
観点別・領域別では、全ての項目が昨年より1～4ポイント下回っています。

平成29年度と平成30年度 経年比較グラフ

★観点別

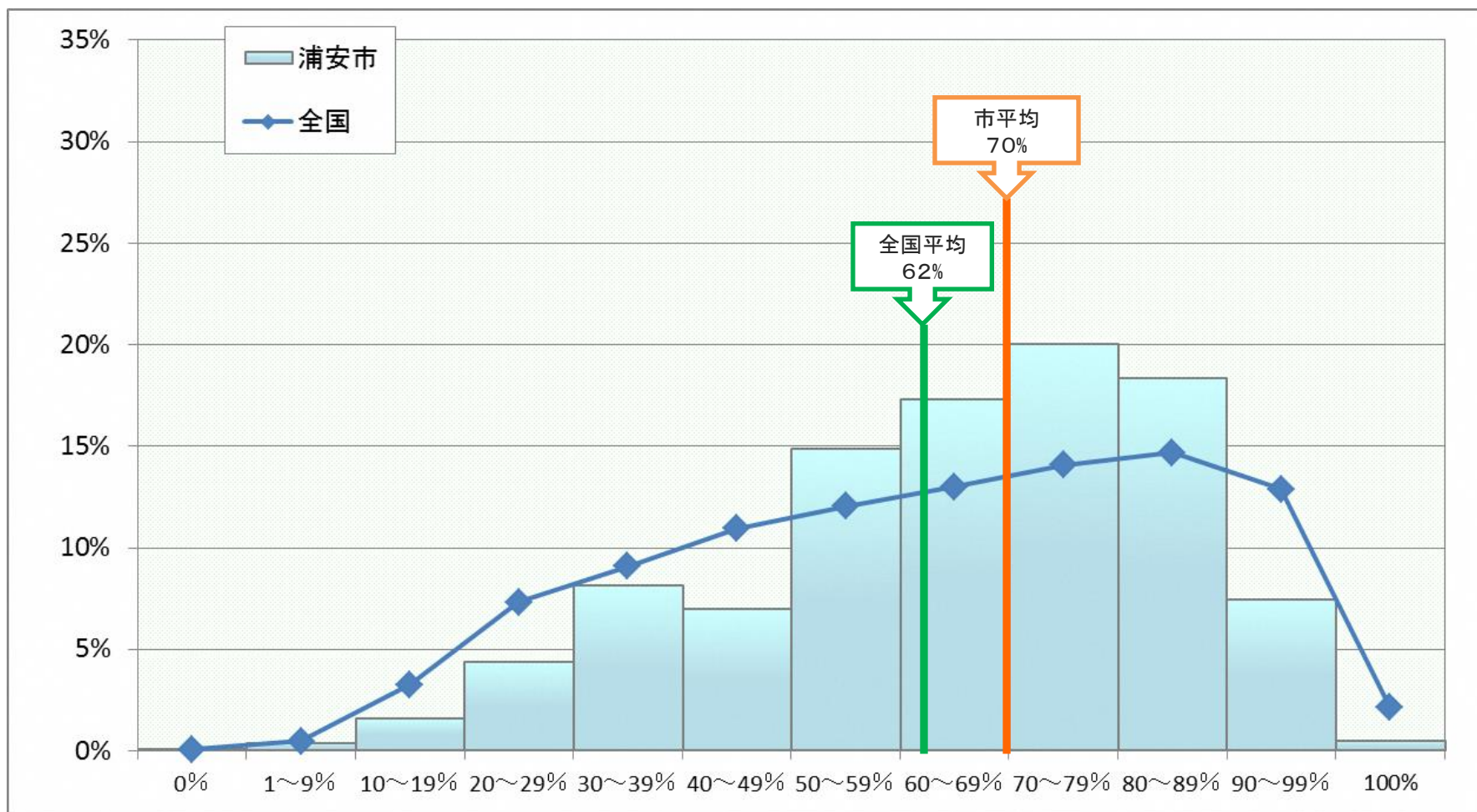


★領域別





平成30年度 中学校2年英語 正答率度数分布



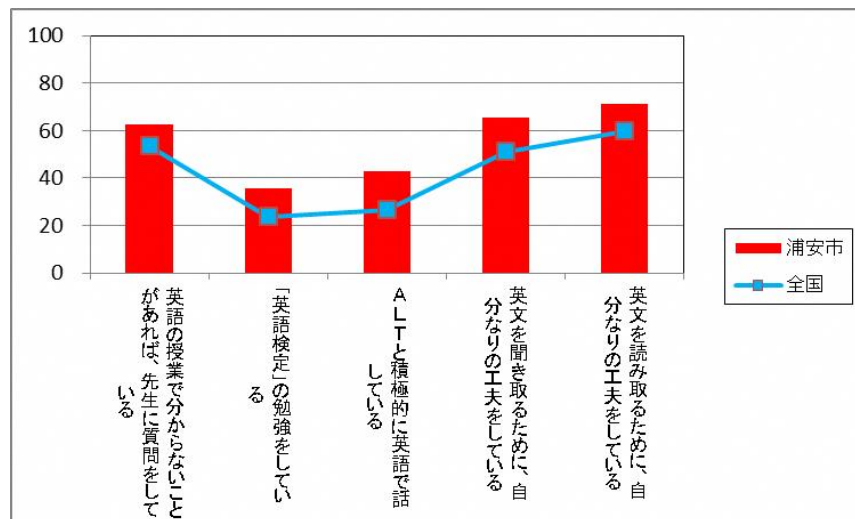
度数分布について

全国と比べて50~89%の全ての層が上回っています。正答率が70%以上の生徒の割合は約58%で、全国(44%)を14ポイント上回っています。

## 平成30年度 中学校2年英語 質問紙調査結果

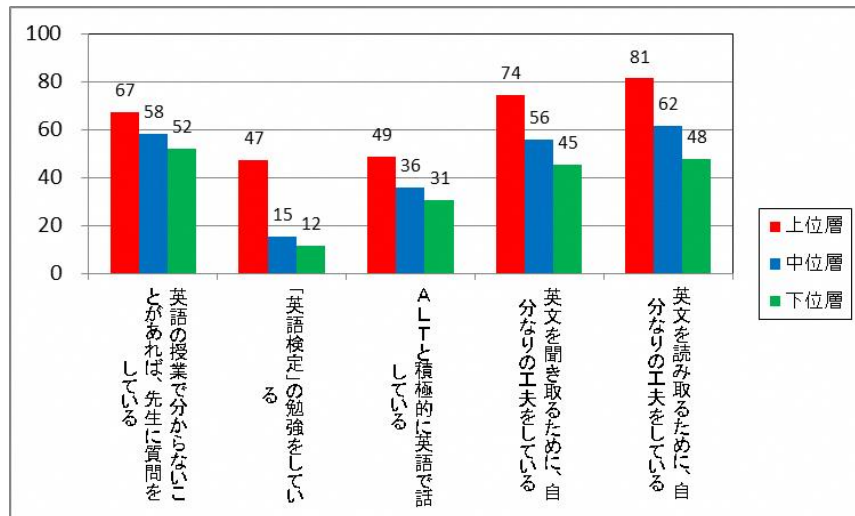
★「はい」と回答した市全体と全国との割合(%)の比較

質問	浦安市	全国
英語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	63	54
「英語検定」の勉強をしている	36	24
ALTと積極的に英語で話している	43	27
英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている	66	51
英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている	71	60



★各層で「はい」と回答した割合(%)と上位層と下位層の割合の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位一下位
英語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	67	58	52	15
「英語検定」の勉強をしている	47	15	12	35
ALTと積極的に英語で話している	49	36	31	18
英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている	74	56	45	29
英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている	81	62	48	33



※3階層の区分は、学力調査の結果が目標値の+5%以上を上位層、-5%以上～+5%未満を中位層、-5%未満の範囲を下位層としています。

結果  
について

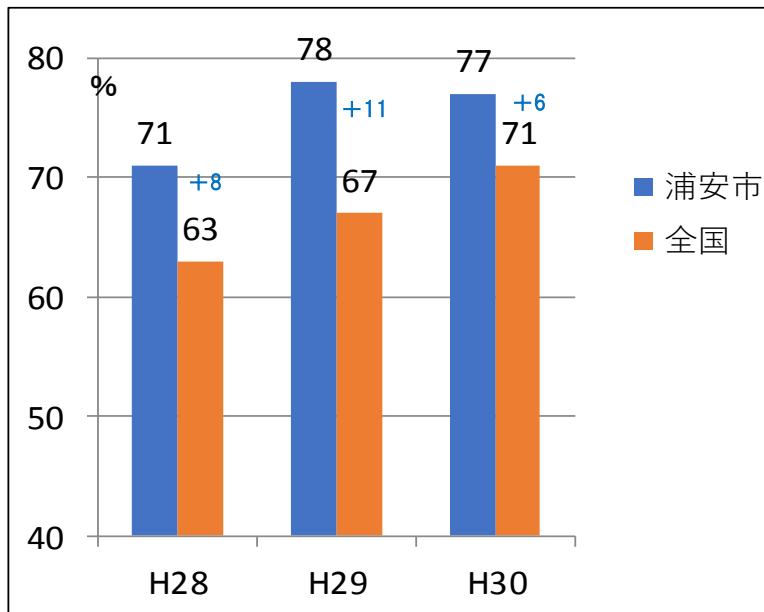
市と全国の比較では、全体的に全国を上回り、「ALTと積極的に英語で話している」は全国値より16ポイント上回っています。

正答率の高かった上位層では、「『英語検定』の勉強をしている」「英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている」と回答した割合が高く、下位階層との差が大きいです。

## &lt;傾向&gt;

【理解・聞くこと】の正答率が高い

「理解—聞くこと」の正答率経年変化



リスニング(内容理解)において、特に「絵を適切に表している英文を聞き取ることができる」の正答率が、高くなっています。

【長文の読み取り—読むこと】の正答率が上昇

Q. 本文の内容に合うように、次の質問に3語以上の英文1文で答えなさい。

How many cats does Takuya have now?

- (He)( has )(five)(cats).

長文の内容を読み取り、文で答える問題です。How many~?で尋ねられているので、数を答える問いですが、Sui is the fifth cat in my house. という英文のthe fifth cat(5番目の猫)から推測して解答する必要があります。また、三人称単数現在形の文なので、一般動詞のhaveをhasにして解答することもポイントです。文脈からの読み取り、動詞の変化、文での解答ができていました。

上記の問題については、昨年度と比べて1.2ポイント(H29:44.6% → H30:45.8%)上回っています。

また、全国値(35.4%)と比べて10.4ポイント上回っています。

## 【知識・理解】書くこと

## ▶ 頻度を表す語を書く問題

A: Is Mike your good friend?

B: Yes. I (often) go to the park with him.

(わたしはしばしば彼と公園へ行きます)

正答率 56.7% (無解答率 22.1%)

## 【表現】書くこと

## ▶ 場面に合った文を書く問題

- 交通手段 (どうやって学校に来るのか) を相手にたずねる場合

How do you come to school?

正答率 22.5% (How以外の解答 52.4%)

## &lt;指導改善例&gt;

## 【日常の取組】

- 必然性のある場面を意識した言語活動を行いましょう。
- 話す活動で扱った表現を書く活動につなげる指導を行いましょう。

## 【学校・学年の取組】

中1(接続期)

- 小学校外国語活動の音声中心の指導から文字指導への橋渡しを丁寧に行いましょう。
- 文法は、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、実際に行う言語活動では、使用場面と文法事項を関連付けて指導しましょう。

全学年

- CAN-DOリストを積極的に活用し、生徒と共有しましょう。単元のゴールを明確にし、主体的な活動を生み出す授業を展開しましょう。

頻度を表す語 “often” を答える問題では、無回答率が22.1%と高くなっています。頻度を表す語は複数あるため、どのような場面でどの語が適切かを知り、使い慣れる必要があります。

場面に合った文を書く問題では、疑問詞の使い分けと、Howの持つ意味を再確認することが必要です。

